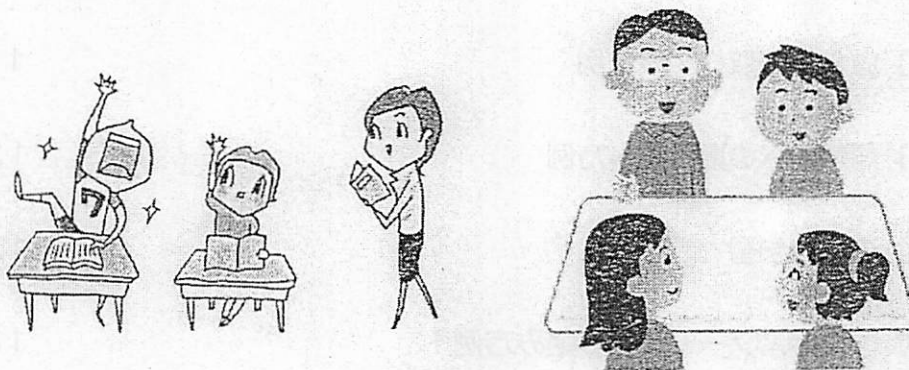


松本市立筑摩野中学校

家庭学習の手引き

【 平成 28 年度版 】



年	組	番	名前
---	---	---	----

☆もくじ☆

- 家庭学習の手引き作成にあたり 1ページ
- I 家庭学習を習慣化するための「3点固定」 1ページ
- II 家庭学習を習慣化するための「家庭学習時間のめやす」 2ページ
- III 家庭学習がもつ7つの意義 2ページ
- IV 家庭学習を習慣化するために・・・保護者のみなさまへのお願い 3ページ
- 筑摩野中学校区 家庭学習推進の手引き 4ページ
- 筑摩野中学校区 学びの段階 7ページ
- 各教科の家庭学習方法一覧【国語・数学・英語・理科】 8ページ
- 各教科の家庭学習方法一覧【社会】 9ページ
- 【国語科】の家庭学習 10ページ
- 【国語科】白文帳の取り組み方例 11ページ
- 【国語科】語句調べの取り組み方例 12ページ
- 【数学科】の家庭学習 12ページ
- 【数学科】家庭学習ノート of 取り組み方例1 13ページ
- 【数学科】家庭学習ノート of 取り組み方例2 14ページ
- 【英語科】の家庭学習 15ページ
- 【英語科】家庭学習ノート of 取り組み方例 16ページ
- 【理科】ノート例 17ページ
- 【社会】ノート例 18ページ

家庭学習の手引き作成にあたり

「学習をがんばりたい」と思っても、「何をどのように始めたらよいか分からない」という人がいます。また、「今もがんばっているけど（もっとがんばりたいけど）、何をすればよいか分からない」という人もいます。

そこで、筑摩野中学校では、そのようなみなさんが学習に取り組むきっかけや、てがかりとできるように、『家庭学習の手引き』を作成しました。しっかりと読んで、家庭学習に役立てましょう。みなさんが自分のペースで学習を進め、最終的に「家庭学習ステージ3」に到達できることを願っています。

- 家庭学習ステージ1 : 家庭学習の習慣が身につく。
☞ 学習時間 1・2年生 700分 3年生 1000分 達成。
- 家庭学習ステージ2 : 時間だけでなく、家庭学習の内容が充実してくる。
☞ 提出ノート以外の内容が増えてくる。
- 家庭学習ステージ3 : 学習の喜びや楽しみを知り、学習意欲が高まる。
☞ やればできる自分に自信をもてるようになる。

家庭学習を習慣化するための「3点固定」

家庭学習を習慣化するためには、いくつか達成しなければならないことがあります。まずは「生活のリズムを確立すること」です。この生活のリズムを確立するために次のことを提案します。「3点固定による生活リズムの確立」です。3点固定の「3点」とは、次の3つの時刻です。

1. 起きる時間
2. 寝る時間
3. 家庭学習を始める時間

この3つの時間を固定することで、家庭学習の習慣が「劇的に」身についた小中学生がたくさんいます。固定するときの注意点は、次の通りです

1. 実現不可能で無理な時間設定をしないことです。
2. 決める際は、保護者の皆さんと一緒に考えましょう。
3. 社会活動や塾がある人などがいますので、毎日固定より、曜日固定の方が実現可能だと思われます。
4. 決めたら、1ヶ月は必ず守るように努力しましょう。1ヶ月やってみてから変更していきましょう。

Ⅱ 家庭学習を習慣化するための「家庭学習時間のめやす」

「3点固定」によって生活のリズムが確立したら、時間のめやすを意識して家庭学習に取り組みましょう。本校では、「家庭学習時間のめやす」を次のように考えました。

1. 1年生と2年生

(1)	月曜日から金曜日までの学校登校日は	1日	90分	は	よろう
(2)	土曜日と日曜日の休日は	1日	120分	は	よろう
(3)	1週間で	月～金	90分×5日間	=	450分
		土・日	120分×2日間	=	240分
	合計		690分		☞ 700分

2. 3年生

(1)	月曜日から金曜日までの学校登校日は	1日	120分	は	よろう
(2)	土曜日と日曜日の休日は	1日	180分	は	よろう
(3)	一週間で	月～金	120分×5日間	=	600分
		土・日	180分×2日間	=	360分
	合計		960分		☞ 1000分

- 上記の数字は、あくまでもめやすですが、最低でもこのくらいはやらなくては、という数字です。当然、1年生や2年生が1000分に挑戦しても、全く問題ありません。
- この「家庭学習時間のめやす」を特に意識する期間を『レッツトライ』として、各学期1回、年3回実施する予定です。詳細は、期間が近づいたら連絡します。

Ⅲ 家庭学習がもつ7つの意義

家庭学習には、以下のような意義があります。

- 授業の復習ができる。
☞ 当日の授業を忘れないうちに、もう1度確認できます。
- 授業の予習ができる。
☞ 翌日の授業で取り組む内容を確認し、疑問や課題をもって授業に臨めます。
- 脳を活性化させる。
☞ 計算練習や漢字の書き取りなどで、脳を活性化させることができます。
- 我慢強さや根気強さが身につく。
☞ 継続して取り組むことによって、ちょっとした困難にも負けない、強い精神力がつかます。
- 集中力が身につく。
☞ 短時間でも、1人で黙々と学習することで、ここぞというときに発揮できる集中力がつかます。
- 自主性・積極性が養われる。
☞ 言われてから取り組むのではなく、自分から取り組む姿勢になります。
- 親子のふれあいが増える。
☞ 家庭学習は、子どもの力だけで何とかなるものではありません。
親子一緒に、様々な工夫をして、取り組んでみませんか？

家庭学習を習慣化するために保護者のみなさまのお願い

家庭学習を習慣化するために欠かせないのが、保護者のみなさまのご協力です。以下のような点について、ご理解とご協力をお願いいたします。

1. ともに考えましょう。

- (1) 3点固定する時は、実現可能な時刻をお子さんと一緒に決めましょう。
- (2) お子さんが、現段階で「家庭学習ステージ1～3」のどこにいるのかを、一緒にご確認の上、目標を決めましょう。
- (3) 『レッツトライ』期間中は特に、家庭学習の取り組み状況はどうだったのか、一緒にふりかえりましょう。

2. 学習環境を工夫しましょう。

- (1) 最も集中して学習できる場所の確保にご協力ください。
- (2) お子さんが集中して学習できるように、ご家族の方もテレビなどの視聴について工夫をお願いいたします。
- (3) 学校の勉強だけが、家庭学習ではありません。新聞やニュースなどで扱われている話題について、親子で気軽に考えを言い合ってみるのも、家庭学習の工夫になります。

3. やる気になる声かけをお願いいたします。

- (1) 「いつ」「どんな声で」「どのようにかけるか」は、お子さんのやる気を大きく左右します。
- (2) お子さんがやる気になる声かけとは・・・
 - ① 努力を認める声かけ
 - ② 結果を快く承認する声かけ
 - ③ 次に向けてやる気になる声かけ
 - ④ うまいいかなかった場合は前向き思考の声かけ
 - ⑤ 約束違反に対する温かく厳しい声かけ 「怒る」ではなく「叱る」

筑摩野中学校区 家庭学習推進の手引き

家庭は学びの環境

＜やる気を育てる家庭での6つのかかわり＞

- 1 小さな成長を大きくほめよう！
- 2 朝食を必ず食べられるようにしよう！
- 3 起きる時刻、寝る時刻を固定しよう！
- 4 テレビを見るより会話をしよう！
- 5 子どもの鏡として、親の姿を見せよう！
- 6 にこにこ元気に「おはよう」「ありがとう」を言おう！

①基本的な生活習慣を見直そう

□「早寝・早起き」 □「朝ごはん」 □「ノーメディア」

☆毎日の生活の中で、規則正しい1日のリズムをつかませることが、子どもにとってたいへん重要です。早寝・早起きを心がけることで、起床してから余裕をもって食事・排便・登校の準備ができるようにしましょう。

☆全国学力調査において、朝食をとらない子どもの学習定着率が低いという結果が出ました。朝食は体温を上昇させ、脳の働きを活発にさせてくれます。朝ごはんをしっかりと食べて、元気に1日を始めましょう。

☆長時間テレビを見たり、ゲームをしたりすると、家庭学習の時間や家族とのふれあいの時間がなくなります。我が家のルールを決めて、例えば週に1度、テレビやゲームなどをしない日「ノーメディアデー」に取り組んでみましょう。

②家庭の学習環境を整えましょう

□整理整頓 正しい姿勢で学習 □決まった場所で一定時間学習
□テレビを消して学習に集中 □声がけ・見届け・励ましの言葉

☆環境で、人は大きく変わることができます。1人1人の生活環境は違いますが、学習環境は整えることができます。片付けができる子どもは、学力が伸びます。机の上をきれいにすることが集中力を生み出します。そのためには、机の上を整理する習慣をつけることから始めましょう。

☆背筋を伸ばした姿勢は、疲れにくく集中力を持続でき、能率よく学習できます。

☆落ち着いた場所で、学年に応じた一定時間、毎日学習に取り組み、学習習慣を定着させましょう。

☆集中力を向上させるため、テレビや音楽を消して学習しましょう。

☆子ども部屋より、居間などで勉強する子の学力が高いという話もあります。家族の息づかいを感じ、適切な声がけをしてもらえることが良い影響を与えるようです。

③学習習慣の定着をめざしましょう

□学年に応じた学習時間 □自分から進んで机に向かう習慣

☆机の前に座る習慣が、子どもの学力を伸ばします。

☆少しの時間でも、毎日、自分から進んで、机に向かう習慣をつけましょう。

☆小学校では、学年×10分以上、机に向かって学習をしましょう。

☆中学校では、学年×60分以上、机に向かって学習をしましょう。

④ 筑中学習スタイルを家庭学習へ取り入れてみよう

平成28年度から筑摩野中学校では、「筑中学習スタイル」をつくり、授業をしています。（*筑中学習スタイル例は裏面）

家庭学習をする時にも、授業の流れのように問題へ取り組んでみることで、力がついていくと思います。参考にしてみましょう。

【筑中学習スタイルを意識した家庭学習の例】

- ① 問題を読む → ② 解き方の見通しをもつ（調べる） → ③ 解いてみる →
④ 答え合わせ・確認 → ⑤ 自信がもてたら次の問題へ挑戦！
→ ⑤ 自信がなければ似た問題で再挑戦！

<英語の例>

① 問題を読む

「You are from Nagano.」を
疑問文や否定文にしよう！



② 見通しをもつ

「疑問文は主語と動詞を入れ替えたな！」
「文末はピリオドでなく“？”に直したぞ！」
「否定文は not を使ったな！」
「not の位置はどこだったかな？」
→教科書などで調べる

③ 解く

〔疑問文〕 Are you from Nagano?
〔否定文〕 You are not from Nagano.

④ 答え合わせ・似た問題を解いてみる。

<数学の例>

① 問題を読む

$x + 3 = 17$ を解こう！

② 見通しをもつ

「最終ゴールは $x = \bigcirc$ の形にするんだよね」
そのために…「3は“=”の右側へ移動をしたな」
その時に…「符号を変えるんだったな」

③ 解く

$$x = 17 - 3$$
$$x = 14$$

④ 答え合わせ

似た問題を解いてみる。



<社会の例>

① 問題を読む

アメリカが多様な農産物を大量に生産できる理由を気候、生産方法、経営者の特色から説明しよう。

② 見通しをもつ（教科書や資料集で調べる）

「アメリカは国土が広く、気候や降水量が地域によって違ったな。」
「少ない労働力で広い面積を経営するから農業機械や科学肥料の開発が盛んだったな。」
「家族経営だけでなく、企業が農業経営をするのもアメリカの特色なんだな。」

③ 解く

広い土地を利用して、大企業が農業に進出し、農業機械や科学肥料を使って、その土地の気温や降水量に合った作物を生産するため、多様な農産物を大量に生産できる。

④ 答え合わせ・用語の確認（今回の場合は…適地適作、企業的な農業）



筑中学習スタイル

時間

生徒

「準備はOK?」



「正す」

先生

チャイム前着席

チャイムを
背中で聞く

(分)

0

5

10

はじめ

「みんなで、このことを考えたいな」

復習、ドリル、基本練習、ミニテスト、宿題の答え合わせ

「この時間の目標を決めよう」

願い、悩み、疑問、意見の違いから出発

ねらい

ねらいを明確に
(提示・板書)

「なるほど。そんな考えもあるね」

相手意識

聴く

発す

追究

- ・個人
- ・ペア
- ・グループ
- ・全体



めりはり

どんな形骸がふさわしい?

「自分はどう思うよ」
(発言・話し合い・学習カード)

15

5

35

なか

「1時間の学習を振り返ろう」

片づけ、ノート・プリントの提出

「ここがわからないな」

見とどけ

ねらいは達成できた?

「この1時間で、こんなことがわかった」

40

5

50

おわり

・宿題
・予習、復習

「授業と同じ問題を、自分で解いてみよう」

「磨く」

・学習カード
・ノートチェック

励まし

生徒のポイント!

1. きちんと準備ができたか
2. この時間の目標を決めたか
3. 学習に積極的に取り組めたか
①聴く ②発す
4. 目標は達成できたか

「分かったところを、学校で先生に聞いてみよう」
「提出ノートで質問してみよう。疑問を書いてみよう」



先生のポイント!

1. ねらいは明確になっているか?
2. どんな学習活動を、どんな学習形態で行うか?
①楽しさ ②深まり
3. ねらいは達成できたか

次の授業につなげるための家庭学習(家庭学習の手引きを参考に)

筑摩野中学校区 学びの段階

小学校 1, 2年 目標 基本的な学習習慣を身につけよう	
家庭学習時間 15～30分 ①はじめに、しゅくだいをしましょう。 ②もっとがんばりたいときは、ひとりペンきょうもやってみましょう。 ③おんどくやどくしょをしましょう。 ④がくしゅうがおわったら、じかんわりをみて、あすのじゅんびをしましょう。	家庭での支援 ①学習を始める前に、テレビを消しましょう。 ②勉強する場所を整理整頓してから学習を始めさせましょう。 ③学習時間を決めて、毎日最後まで丁寧にできるようにさせましょう。 ④家庭学習を見届け、あたたかい助言や励ましの言葉がけをしましょう。 ⑤時間割や連絡帳、お便りを見て、明日の準備を一緒に確かめましょう。

小学校 3, 4年 目標 自主的な学習習慣を身につけよう	
家庭学習時間 30～50分 ①はじめに、学校の宿題をしよう。 ②いろいろな教科の勉強をやってみよう。 ③わからないことや新しく発見したことは本や事典、パソコンなどで調べよう。 ④ニュースに関心をもち、できるだけ新聞を読もう。 ⑤音読や読書をしよう。 ⑥明日の学習や用具のじゅんびをしよう。	家庭での支援 ①テレビなどを消してから、学習を始めさせましょう。 ②勉強する場所の整理整頓をし、集中して取り組む習慣をつけましょう。 ③決まった時間に、進んで机に向かう姿勢を育て、家庭学習を必ずやりきらせましょう。 ④家庭学習のがんばりを認め、あたたかい助言や励ましの言葉がけをしましょう。 ⑤自分で明日の準備をする習慣をつけ、必要なときは確認をしてあげましょう。

小学校 5, 6年 目標 自学自習の習慣を身につけよう	
家庭学習時間 50～70分 ①はじめに、学校の宿題をしよう。 ②自分で考えて、いろいろな教科の一人勉強の時間を増やそう。 ③新しく発見したことや気になったことは、本や事典、パソコンなどで調べてみよう。 ④ニュースに関心をもち、新聞を読み、自分なりの考えをもてるようにしよう。 ⑤進んで音読や読書をしよう。 ⑥見直しをもって、用具や学習の準備をしておこう。	家庭での支援 ①テレビやゲームの時間、勉強の時間について家族で話し合いましょう。 ②勉強する場所・時間・内容を決めて、計画的に学習が進められるように励ましましょう。 ③家族の一員として、お手伝いや役割を話し合い、家庭科などで学習した内容を家庭で実践させましょう。 ④「やればできる」という気持ちをもたせ、認めたり励ましたりして、自信をもたせましょう。 ⑤学校の学習やニュースを話題に家族で話してみよう。

中学校 1, 2年 目標 自学自習を習慣化し、学習スタイルを確立しよう	
家庭学習時間 1年 70～90分	2年 90～120分
<家庭学習の手引きをしっかりと読み、見本のノートのように書いてみよう> ①今日は「何を、どのくらいやるか」学習の前に細かく計画を立てる。 ②起きる時刻、勉強を始める時刻、寝る時刻を決め、家の人に宣言しよう。 ③学習場所はテレビが見えないような集中できる場所に決め、整理整頓する。 ④目標の時間（90分等）と場所を決め、その時間は勉強をしよう（宿題がなくても）。 ⑤最初に宿題、次に授業の復習に重点を置き、最後に「自分の問題集」や予習をやろう。 ⑥復習はわかるところまでやるのが大切。わからなければ、次の日先生に質問しよう。	

中学校 3年 目標 自己実現のため、効率よく学習をすすめよう	
家庭学習時間 4～7月 120～150分	7～3月 120～180分
<家庭学習の手引きをしっかりと読み、見本のノートのように書いてみよう> ①今日は「何を、どのくらいやるか」基本の学習（国・社・数・理・英）をバランスよく計画しよう。 ②起きる時刻、勉強を始める時刻、寝る時刻を決め、家の人に宣言しよう。 ③集中力を高めるため授業のように50分やったら、10分休憩するパターンで取り組んでみる。 ④目標の時間（120分等）と場所を決め、その時間は集中して勉強をがんばろう。 ⑤最初に宿題、次に授業の復習に重点を置き、不得意教科を中心に「5教科の問題集」を使って復習・予習をやろう。 ⑥復習はわかるところまでやり、わからなければ次の日必ず先生に質問し解決しよう。	

それぞれの進路へ

各教科の家庭学習方法一覧

国 語	<p>①予習として、教科書を音読しよう。また、復習としても何度も教科書を音読しよう。</p> <p>②漢字を丁寧な字で書こう。</p> <p>③わかりにくい言葉があったら、辞書で調べよう。</p> <p>④文法の授業があった日は、必ずノートを見返そう。</p> <p>⑤長文に慣れるためにも、新聞や図書館の本をたくさん読もう。</p>
数 学	<p>①やり方や解き方を覚えよう。答えが合っていればよいではありません。</p> <p>②計算問題は、必ず毎日20分以上行おう。</p> <p>③文章問題は、積極的に取り組むことで慣れよう。要点をメモ書きしてみると、問題の内容が分かりやすくなります。</p> <p>④とにかく多くの問題を解き、速さと正確さを身につけよう。</p> <p>⑤学習効果は3ヶ月くらいかかります。すぐに結果が出なくても、あきらめずに取り組もう。</p> <p>⑥5分でも予習すると、授業がよく分かるようになります。</p>
英 語	<p>①復習として、授業でやったページの新出単語を繰り返し書こう。</p> <p>②基本文を繰り返し書こう。常に日本語→英語、英語→日本語を意識しよう。</p> <p>③大切な熟語も書いて覚えよう。</p> <p>④英語を書くときは、常に声を出して書くようにしよう。(音読筆写)</p> <p>⑤時間を決めてできるだけ速く、教科書本文の書き取りをしよう。(速写)</p> <p>⑥予習として、次の授業で扱うページの新出単語の意味を調べよう。</p>
理 科	<p>①学習する内容は、自然の中に存在し、身のまわりの道具や機械にも応用されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然や現象に注目して生活すると理科を身近に感じられます。 ・ニュースや情報番組などで知ることができる科学技術の最先端に触れましょう。 <p>②授業で学んだことは、その日のうちに復習。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業ノートを見返し、教科書をよく読み、太字の用語を覚える+説明できるようになる。 ・実験の様子がパッと見てわかるように、図や実験内容の説明を必ずかいておく。 ・ノートに授業プリントを貼るときは、折り畳まない。あとで見やすいことが大切。 <p>③計算問題は、単位の置き換えと公式の使い方。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科の公式は、単位と単位の関係で覚える。 ・公式に当てはめるまでの単位の置き換えが重要です。 <p>④問題は必ず解けるように、必要なことはすべて書かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題文に書いてある“条件”“数値”“図や表の内容”は鉛筆で印をつけましょう。 ・上のことは、問題を解いてみて、解説を読んで、繰り返し解くことで身につく。 <p>⑤分からないことをそのままにしておかない。理科の先生や友だちに聞いてみよう</p>

①授業がすべての基本。

- ・自分のノートをきちんとまとめよう。話を聞こう。
- ・読み・書き・計算の力を高めよう。(国語・数学の学力を高めよう。)

※ノートをまとめる際の工夫は、多種多様。別紙【授業ノート作成例】参照。

・・・どれか1つでも、挑戦してみよう。

【例1】黒板の字だけでなく、先生の話もメモしておく。

＜期待できる効果＞→ひたすら書くことで眠気防止になる。

→授業内容を思い出すためのキーワードが増える。

【例2】内容(歴史上の出来事)を理解するためのイラスト・マンガを加える。

＜期待できる効果＞→文章・話を絵に表すことで、理解が深まる。

【例3】紹介された資料があるページ番号をメモしておく。

＜期待できる効果＞→テスト勉強などで復習するときに、どこを見ればよいのかが分かって便利。

【例4】色づかいを工夫する。(重要語句は赤、授業のまとめ部分は青枠など。)

＜期待できる効果＞→見返した時に、見やすく分かりやすい方が、復習しやすい。

【例5】1時間の授業のまとめ・感想を簡単に書き続ける。

＜期待できる効果＞→自分の考えを文章にすることで、書く力(表現力)が向上していく。

②覚えるべき事は努力して覚えよう。

- ・暗記は、1回にしてならず!

→重要語句は何度も見よう・何度も書こう。教科書の本文を繰り返し読んでみるだけでも効果あり。

- ・木を見て森も見ろべし!

→社会科の学習で大切なのはつながり。その語句と関連している事柄を調べていこう。

【例1】この人物は誰?・・・どの時代の人なのか?どんなことをした人なのか?

【例2】この都道府県名は?・・・県庁所在地は?どのような地形なのか?

どのような産業が盛んなのか?

他県(他国)とのつながりはあるのか?

※授業中にまとめたノートを見返そう。

③実践力を高めよう。

- ・問題集は繰り返し解こう。

→1・2年は単元プリント、3年は「受験対策問題集」を活用しよう。テスト勉強用・入試対策用のノートを用意しておくとういことです。繰り返し解いた問題の数(努力)=学力につながります。

- ・解いたら必ず答え合わせをしよう。

→間違えた問題については、しっかりと解説を読もう。それでも分からないときは、友だちや先生に聞こう。

- ・学習を生活につなげよう。

→ニュースを見る・新聞を読む。3年生は、スクラップブックという課題に取り組みます。今、世の中でどんなことが話題になっているのか? 視点の基本は5W1H(何が・誰が・いつ・どこで・なぜ・どのように)どこで、何が起きているのか?誰が関係しているのか?なぜそのようなことが起きているのか?事態はどのように進んでいるのか?

【国語科】の家庭学習（白文帳と語句調べノート）

1 家庭学習の目的

- (1) 授業の予習をし、学校の授業の内容を理解し、自分でも活用できるようにするために行う。
- (2) 授業の復習をし、学校の授業の内容を定着させ、発展応用ができるようにするために行う。
- (3) 自分の学力の優れている面を伸ばし、苦手な部分や不十分なところを補うために行う。
- (4) 毎日の学習習慣を身に付け、大きな目標に向かって地道に、計画的に努力ができるようになるために行う。

2 白文帳 <目標>

- ① 自分の力になる勉強方法を身に付ける。 (漢字を繰り返し書くだけの勉強から卒業)
- ② 漢字や語句について様々な面から勉強する。 (読み・書き・部首・筆順・熟語等々)
- ③ 能率的で効果的な学習方法を学ぶ。(テストして覚え、できなかった漢字は繰り返しテスト)
- ④ 自分の進歩がわかるものにする。 (できた問題は、できたしるしをつける)

白文帳のやり方

- ① 白文帳に日付と、「E 漢字」のページを記入する。
- ② 白文帳に「E 漢字」の例題問題をテストして覚える。(「10回書いて」、「1行ずつ書いて」という勉強方法から変える。)
- ③ 答え合わせに赤のボールペンを使用する。(できたものは赤○をつける。×はつけない。その分、できなかった漢字をその場で覚える。)
- ④ やり直しに青のボールペンを使用する。(覚えてから青で間違った横に正しい答えを書き込む。白文帳を見ると、できなかった漢字が青で書かれていて、一目でわかる。)
- ⑤ 赤○がついた答え(できた問題)は、「E 漢字」の問題にしるしをつける。(できたらしるしをつける。しるしが増えていくのが学習の効果)
- ⑥ しるしのつかない問題をまたテストして覚える。(しるしがつくまで何回もチャレンジする。できたらしるしをつけ、もうやらない。)

3 語句調べノート<目標>

- ① 授業の予習をして、疑問点をはっきりさせて授業にのぞむ。
- ② 辞書を活用し、教科書に出てくる語句の意味を正確に理解できるようにする。
- ③ 新聞やニュースに出てくる言葉の意味を知り、社会人としての一般知識を深めていく。

語句調べノートのやり方

- ① 授業に入る前に教科書の次の単元を読み、意味の分からない語句にマーカーをつける。
- ② 語句調べノートに、意味の分からない語句(マーカーをつけたもの)・教科書下の重要語句・新出漢字・新出音訓を書き出し、辞書で読み方や意味を調べて書いていく。
- ③ 授業中にノートを見て、分からない語句の意味を確かめたり、正しい意味がいえるかテストしてみたりする。(自分の言葉で意味が言えるようにしていく。)
- ④ 語句調べノートに書いてある語句は、読める・書ける・意味が言えるように、白文帳の学習やテスト勉強にも活用する。

4 学習方法

基本① 次のテスト範囲について、「E 漢字」の例題問題をテストする。

② 教科書の新出漢字、教科書下の重要語句を読めるようにテストする。

③ 教科書の新出漢字、教科書下の重要語句、意味の分からない語句の意味を調べる。

<さらに力をつけるために>

応用① 教科書の新出漢字、教科書下の重要語句を書けるようにする。

② 「入試に出る漢字」「四字熟語」「同音異義語」「同訓異字語」「類義語」「対義語」も書けるように問題に取り組む。

③ ニュースを聞き、新聞を読んで分からない言葉について調べて、一般常識を広げていく。

④ 問題集等自分で考えて問題を解く。

【数学科】の家庭学習

数学科では、家庭学習の課題を出しています。「ただやればいい」のではなく、「できるようになったか」「力がついたか」という意識を常にもって取り組んで欲しいと思います。

◎取り組み方

- ・原則として、最低1ページとする。1ページ以上行ってもよい。
- ・ノートはB5版を用い、1ページを半分に仕切るなど工夫して、1ページびっしり行う。
- ・途中の考え方や計算式を必ず書く。
- ・答え合わせを必ず行う。 → 答え合わせができる問題に取り組む。

◎内容については教科担任の先生と相談し、以下の中から選んでよい。

- ①簡単な計算問題を1ページびっしり解く。
- ②授業の復習(指示された授業の宿題、宿題プリント、授業でやった問題等を自分でもう一度やる。)
- ③授業でよくわからなかったことを自分でもう一度やる。次の授業の予習をする。自分の問題集をやる。3年生は「5教科の問題集」をやる。

＜よりよい家庭学習(力がつく学習)になるためのアドバイス＞

- 答え合わせは最後の答えだけでなく、間違えてしまった場合途中の計算や考え方を確認し、「どこで、どのような間違いをしたのか」「どうしたらよかったのか」を確認する。(例1参照)
- 間違えた問題は、その日または翌日にもう一度取り組む。やり直した問題も必ず答え合わせをする。(例1参照)
- 正解した問題でも心配な問題には、もう一度取り組むとよい。(例1参照)
- 解答解説を読んでもわからない問題は、提出ノートの中や、休み時間などに教科担任の先生に質問し、きちんと解決しておく。(例2参照)

英語科の家庭学習

○自主勉強ノート…目安は毎日1ページ(土・日・祝日も含む!!)

- やった日付を英語で書いておきましょう。(例:4月8日金曜日=Friday, April eighth)
- ノートにあらかじめ日付やカウントナンバーを書いておくとよいでしょう。できなかった日の分を取り戻したり、余裕のある時にノートをすすめたりする励みになります。
- *ノートはぎょうじり書きしましょう。(最後のノート例を参照)
- *4線上にはできるだけ英語を書きましょう。意味や訳などの日本語は行間に。

【復習編】

- *授業でやったページの新出単語を繰り返し練習する。すらすら発音できるようになるまで声に出して何度も練習する。
- *教科書の基本文と本文を写し、自分で授業ノートなどを見ながら訳をつける。訳がつけられないところはまだ完全に理解できていないところです。先生に確認しましょう。先生にわかるように、ノートで質問するのもよいでしょう。
- *日本語訳を先に書いて、教科書を見ずに英語に直してみる。(テスト前には必ずやってほしい)
- *教科書の下にある基本文の練習問題や Your Turn をもう一度やってみる。
- *授業でやった部分のワークをやる。自分で答え合わせし、間違ったところ、書けなかったところは×をつけるだけでなく正しい答えを書いておく。
- *ワークブックや単元テストの問題を、提出ノートに問題ごと写しながら、何度もやってみる。

【予習編】

- *次の授業で扱うページの新出単語の意味を調べて、繰り返し練習する。
- *基本文・本文を写し、訳を付けてみる。内容をつかむときには、when いつ、where どこ、who だれ、what なに、how どのように、why なぜに着目して読んでみよう! 訳せなかったところに印をつけ、その部分に注意して次の授業を聞きましょう。
- *英和辞典や和英辞典をひく習慣をつけよう。単語だけでなく、文型や文法もわかる場合があります。例文もチェックし、自由英作文の参考にしましょう。

【テスト前には】

- *教科書を声に出して読みましょう。すらすら読めるまで頑張りましょう。
- *教科書の基本文と本文を何度も書いて覚えましょう。単語のつづり(スペリング)、語順、疑問文、否定文の形、熟語(決まり文句)など意識しながら書き取りましょう。
- *ワークブックなどには文法事項について、わかりやすくまとめてある部分があります。読むだけでなく自分でもノートに写したりまとめなおしてみたりしながら復習しましょう。
- *ワークブック、単元テストのまとめの問題を、テストのリハーサルとしてテスト勉強の仕上げをしてみよう。まだ書けない単語、語順の間違いなどをチェックし、正しく覚えよう。

【テストが返却されたら】

- *間違えた問題をノートに丁寧に書き写して、正しい答えを書きましょう。
- *もう一度テストをやり、答え合わせを自分でしましょう。わからないところ、あやふやなところがないか確認しておきましょう。